

## 5) 法動態部門

中川 晶比兒（教授・経済法）

センターの部門に関連した研究活動およびそのアウトプットについて。

昨年度に引き続き、協調的行動規制の再検討にかかる研究を進めた。競合企業間の横並び価格といった並行行為が、各企業が独立して意思決定をした結果（競争の結果）として実現される場合と、競合企業間の競争制限的な行動として実現される場合とを識別するための基準作りを行った。具体的には、プライスリーダーシップに関する経済学の先行研究をまとめ、ゲーム理論を用いたモデル分析による再現を行い、さらにモデル分析の結果を、法的基準に抽象化する作業を行った。本年度の研究成果のとりまとめは次年度を予定している。昨年度の研究成果については本年度の初頭に公表した。

自身の研究活動およびそのアウトプットについて。

医薬品産業における独占禁止法規制のあり方に関する研究を続けてきたが、小売価格を法定する薬価基準制度が存在する点が他の産業とは著しく異なることから、薬価基準制度の政策目的を独禁法との比較の観点から解明する研究構想を立てた。幸い民間の研究資金を得たため、次年度から本格的に研究を進めることになった。

その他（教育活動ほか）

法律英語の授業で、個人情報保護法をめぐる問題を取り扱う予定であったが、履修者が少なかつたため、やむなく独占禁止法入門にテーマを変更した。独占禁止法以外のテーマにかかる教育活動としては、過労死に関する演習を開講した。論点網羅する形で充実した授業内容となった。

論文

論文標題	雑誌名	発行年	頁
グローバル化時代の独占禁止法： 国際的な法形成起点と域外適用	社会科学研究	2018	91-127